式辞

卒業生のみなさん、卒業おめでとう。

八木北小学校の六年間は、どうだったでしょうか。

振り返れば、四年生の終わるころ、突然の全国一斉の臨時休業。

五年生のスタートは、分散した形ではじまりました。

　マスク生活の定着。給食のとき一言もしゃべらない黙食も当たり前の姿にかわってしまいました。

　ただ、それ以前の楽しかった給食、マスクなど気にせず走り回れたロング休憩など、学校の当たり前を知っているのも卒業生の強みだと思います。

　日々行われる「当たり前のこと」の大切さを教えてくれた時間だったと思います。

今日のこの卒業証書授与式がこのように行うことができた喜びをこれまでの卒業生以上にかみしめているのではないでしょうか。

ご参列いただきました保護者の皆様。ご卒業おめでとうございます。

六年前、小さな背中に大きなランドセルを背負い学校へ向かっていった姿を思い出される方もいらっしゃると思います。

　体も心も健やかに成長したお子様を見られて感激もひとしおではないかと推察申し上げます。

　また、六年間、八木北小学校の教育活動にPTAはじめ様々な形でご協力ご支援いただきました。また、感染症対策での様々な学校の対応にご理解賜りました。

　重ねてお礼申し上げます。

　ありがとうございました。

　さて、卒業生のみなさん。

　いよいよ中学生です。中学校は「大人になる学校」と言われます。

　これまでよりも勉強は難しくなりますし、部活動では今までに経験したことのない緊張感や達成感を獲得すると思います。

　そのみなさんに送りたい言葉が四つあります。

　歌人で書道家でもあった会津八一さんが、当時の学生を励ますために書いた四つの言葉。

一、　深くこの生を愛すべし

 一、かえりみて己を知るへし

一、学芸を以て性を養うへし

一、　日々真面目あるへし

「学規」と呼ばれる文章です。

今、生きている自分自身の命を愛してほしい。

いつも、自分自身を振り返ってほしい。

いつも勉強や芸術に親しみ毎日を豊かにすごしてほしい。

そして、日々生長をつづけてほしい。

そんな意味になるでしょうか。

八木北小学校の卒業生として、与えられたみなさんの命を十分に輝かせてほしい、そんな思いを込めて紹介しました。

　世界はいま激動の時間を過ごしています。

　卒業生みなさんの進む先が輝かしい未来であることを祈念して式辞といたします。

令和四年三月十八日

岸和田市立八木北小学校　校長　田中　裕雄